

EPSON

EMP-7850 EasyMP™

セットアップガイド

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。

お使いになる前に

本製品を安全に正しくお使いいただくために、このマニュアルをよくお読みください。不明な点をいつでも解決できるように、その後はすぐに見られる場所に大切に保存してください。

説明書中の表示の意味

安全に関する表示

取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。その表示と意味は次のとおりです。内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する表示

 注意	プロジェクターの故障や損傷の原因になるおそれがある内容を示しています。
 ポイント	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「付録 用語解説」をご覧ください。● p. 74
 操作	操作方法や作業の順番を示しています。 番号順に操作して目的の作業を行ってください。
[(表記名)]	操作パネルまたはリモコンのボタン、プロジェクターの入出力端子を示しています。 例：[ESC]
「(メニュー名)」	画面に表示されているボタンやメニュー名を示しています。 例：「OK」
	奇数ページを超えて、次ページに説明が続くことを示しています。

「本機」または「プロジェクター」という表記について

本書の中に出てくる「本機」「プロジェクター」という表記には、プロジェクター本体のほかに同梱品や別売品も含まれる場合があります。

目次

機能の紹介	3
コンピュータの映像をネットワーク経由で投写する (Network Screen)	3
プロジェクターを一括管理する	4
コンピュータレスのプレゼンテーションをする (CardPlayer)	5

お使いになる前に

動作環境	8
EasyMP Software が動作可能なコンピュータ	8
接続可能な無線 LAN カードとアクセスポイントの条件	10
同梱の無線 LAN カード使用上のご注意	10
カードのセットと取り出し	12
セット方法	12
取り出し方	13
アクセスランプの見方	14
EasyMP Software のインストール	15

ネットワーク接続してコンピュータの映像を投写する (Network Screen)

ネットワーク接続の種類	18
簡単接続モードで接続する	19
接続の前に	19
簡単接続モードでの接続手順	20
ツールバーの使い方	31
各アイコンの名称と働き	31
E ズーム	33
基本設定	34
ネットワーク接続を切断する	36
コンピュータから切断する	36
プロジェクターから切断する	36
アクセスポイントモードまたは 有線 LAN 接続モードで接続する	37
接続の前に	37
アクセスポイントモードまたは 有線 LAN 接続モードでの接続手順	38

接続したいプロジェクターが表示されないときは	52
IP アドレスを指定して接続	52
グループを作成して接続	57
データを暗号化して通信したいときは	67

付 録

使用できる PC カード	72
使用できるメモリカード	72
使用できる有線 LAN カード	72
EasyMP Software のアンインストール	73
用語解説	74
適合宣言について	76
索引	78

機能の紹介

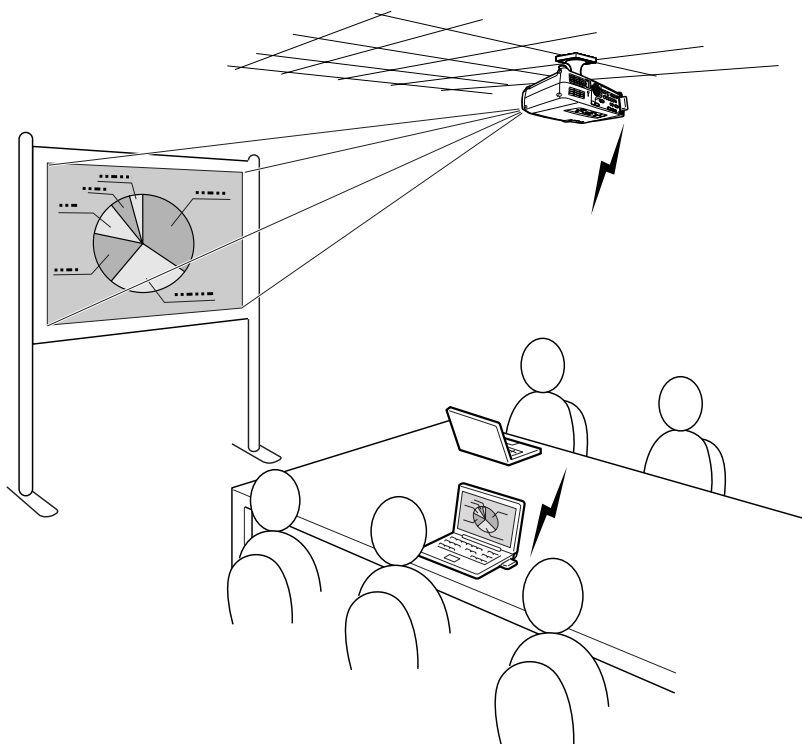
本機に搭載されている EasyMP の機能は、大きく次の 2 つに分けられます。

- コンピュータとネットワーク接続して、コンピュータの映像を投写する機能 (Network Screen 機能)
- プロジェクターにセットしたメモリカード内にあるファイルを投写して、コンピュータと接続することなくプレゼンテーションできる機能 (CardPlayer 機能)

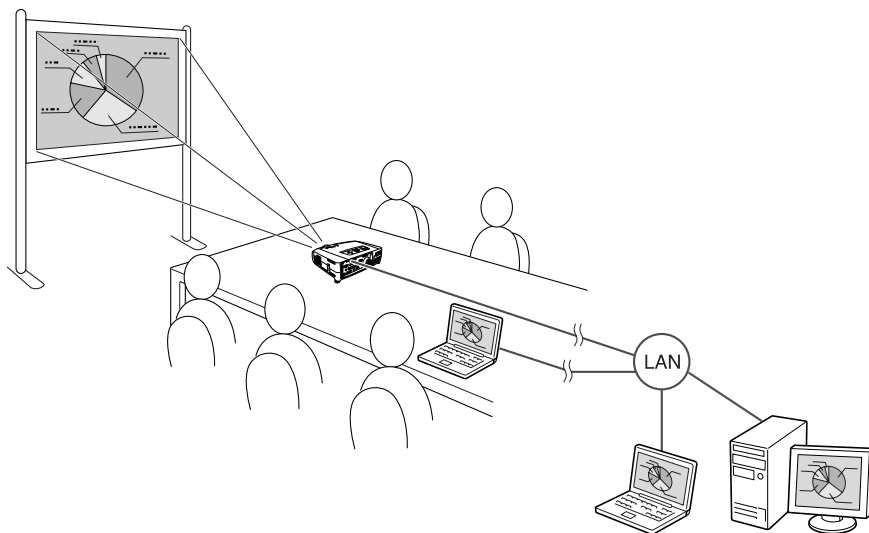
コンピュータの映像をネットワーク経由で投写する (Network Screen)

Network Screen が搭載されたプロジェクターと無線 LAN でネットワーク接続すると、ワイヤレスでコンピュータの映像を投写することができます。また、プロジェクターを LAN に接続すると、ネットワーク上のコンピュータの映像を投写することができます。

ワイヤレスで接続



有線 LAN で接続

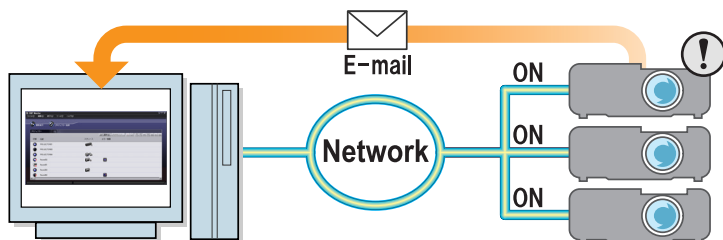


プロジェクターを一括管理する

プロジェクターに何らかの異常が発生した場合、そのプロジェクターから異常の内容を電子メールで通知させることもできます。

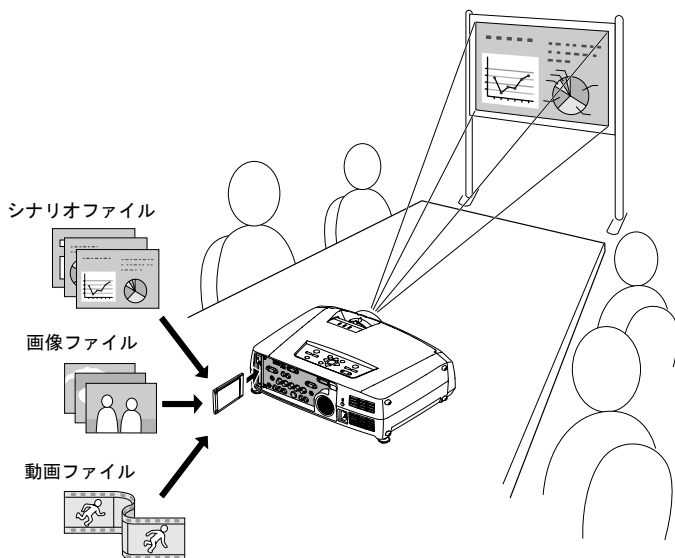
離れた場所に設置してあるプロジェクターを一括で制御、監視できますので、効率的な運用が可能です。

「EMP Monitor」を使うと、電源をまとめてオン/オフするなど、ネットワークに接続している複数のプロジェクターを一括で管理することができます。



コンピュータレスのプレゼンテーションをする(CardPlayer)

CardPlayer を使うと、メモ리카ードに保存したファイルをコンピュータを使わずに投写することができます。



PowerPoint ファイルを投写する

EMP SlideMaker2 を使って、PowerPoint ファイルから必要な部分を抽出、並べ替えをしてシナリオを作成し、メモ리카ードに転送します。

メモ리카ードに転送したシナリオは CardPlayer で再生できますので、プロジェクターとメモ리카ードだけ持ち運べば、出先で PowerPoint を使ったプレゼンテーションができます。

デジタルカメラの写真データを投写する

メモ리카ードに保存した画像やファイルを、一覧表示したりスライドのように 1 ファイルずつ順次投写したりすることができます。

動画ファイルを投写する

MPEG 形式の動画を投写することもできます。デジタルビデオカメラで録画した動画や、インターネットからダウンロードした動画をメモ리카ードに保存すれば、画像と同様 CardPlayer で再生できます。MPEG 動画に音声録音されている場合は、音声も一緒に再生します。

動画を使った、より効果的なプレゼンテーションを行えます。

お使いになる前に

ここでは、プロジェクターとコンピュータをネットワーク経由で接続するための準備作業について説明しています。

動作環境	8
● EasyMP Software が動作可能なコンピュータ	8
● EMP NS Connection が動作可能なコンピュータ	8
● EMP SlideMaker2 が動作可能なコンピュータ	8
● EMP Monitor が動作可能なコンピュータ	9
● 接続可能な無線 LAN カードとアクセスポイントの条件	10
● 同梱の無線 LAN カード使用上のご注意	10
● 電波に関する安全上の注意	11
● 周波数に関する使用上の注意	11
● 国外へ持ち出す場合の注意	11
カードのセットと取り出し	12
● セット方法	12
● 取り出し方	13
● アクセスランプの見方	14
● カードスロットアクセスランプの見方	14
● 無線 LAN カードのアクセスランプの見方	14
EasyMP Software のインストール	15

EasyMP Software が動作可能なコンピュータ

同梱の『EasyMP Software CD-ROM』には、次の3つのソフトウェアが入っています。

- EMP NS Connection

コンピュータの映像を、ネットワーク経由でプロジェクターに送信します。

- EMP SlideMaker2

シナリオの作成、転送をします。

- EMP Monitor

ネットワーク上の複数のプロジェクターを同時に監視・制御します。

各ソフトウェアにより、動作可能なコンピュータの条件が次のように異なります。

EMP NS Connection が動作可能なコンピュータ

OS	Windows 98/Me/2000/XP が動作するコンピュータ※
CPU	Pentium III 500MHz 以上 (Pentium III 700MHz 以上を推奨)
メモリ容量	128MB 以上 (192MB 以上を推奨)
ハードディスク空き容量	20MB 以上
ディスプレイ	VGA (640 × 480) 以上の解像度 (XGA (1024 × 768) の解像度、16 ビットカラーの表示色を推奨)

※ Macintosh には対応していません。

EMP SlideMaker2 が動作可能なコンピュータ

OS	Windows 98/Me/2000/XP が動作するコンピュータ※
CPU	Celeron 300MHz 以上 (Celeron 400MHz 以上を推奨)
メモリ容量	64MB 以上 (128MB 以上を推奨)
ハードディスク空き容量	12MB 以上
ディスプレイ	SVGA (800 × 600) 以上の解像度 (XGA (1024 × 768) 以上を推奨)

※ Macintosh には対応していません。

EMP Monitor が動作可能なコンピュータ

OS	Windows 98 SE/Me/NT 4.0/2000 Professional/XP が動作するコンピュータ※
CPU	Pentium MMX 166MHz 以上 (Pentium II 233MHz 以上を推奨)
メモリ容量	64MB 以上 (128MB 以上を推奨)
ハードディスク 空き容量	6MB 以上
ディスプレイ	XGA (1024 × 768) 以上の解像度、16 ビットカラー以上の表示色

※ Macintosh には対応していません。

接続可能な無線 LAN カードとアクセスポイントの条件

同梱の無線 LAN カードは、Wi-Fi に準拠した以下の製品と接続できます。

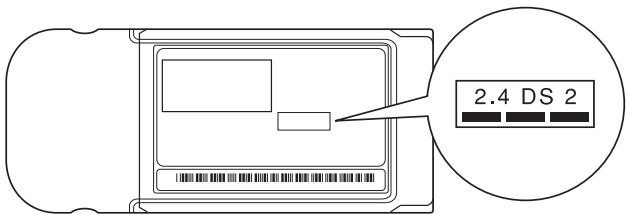
- 無線 LAN カード
- 無線 LAN 機能内蔵コンピュータ
- アクセスポイント

同梱の無線 LAN カードは、本プロジェクター専用となっております。コンピュータにセットしてトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

同梱の無線 LAN カード使用上のご注意

プロジェクターでは、同梱品以外の無線 LAN カードは使用できません。

同梱の無線 LAN カードの以下のラベルの意味は次のとおりです。



使用周波数帯域	2.4GHz 帯
変調方式	HR/DSS-SS 方式
想定干渉距離	20m 以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」帯域を回避可能

電波に関する安全上の注意

同梱の無線 LAN カードを使用する際は、次の点に注意してください。

- 心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼし、誤作動の原因となることがあります。お使いの前に、電磁妨害が発生しないことを十分に確認した上で、お使いください。
- 医療機器に電磁妨害をおよぼし、誤動作の原因となることがあります。お使いの前に、電磁妨害が発生しないことを十分に確認した上で、お使いください。
- 電子レンジの近くでお使いにならないでください。電子レンジから発生される電磁妨害により、正しく無線通信できなくなります。
- 飛行機での使用は国によって制限される場合があります。お使いの前に、制限がないかを十分確認した上で、お使いください。

周波数に関する使用上の注意

プロジェクターで利用できる無線 LAN カードの使用周波数帯は、2.4GHz 帯です。この周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか工場の製造ラインで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。

無線 LAN カードを使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この無線 LAN カードから移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用をやめ電波の発生を停止してください。

その他、この無線 LAN カードから移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、インフォメーションセンターにお問い合わせください。

国外へ持ち出す場合の注意

無線 LAN カードは販売国の仕様にに基づき同梱されています。

無線 LAN カードは、使用する国によりチャンネル▶番号や使用周波数に制限があるため、同梱の無線 LAN カードを販売国以外で使用する場合はご注意ください。

カードのセットと取り出し

ここでは、PC カードのセット方法、取り出し方を、同梱の無線 LAN カードを例に説明します。その他のカードを使う場合や、コンピュータの PC カードスロットへのセットや取り出し方については、使用するカードに添付の『取扱説明書』をご覧ください。



ポイント

プロジェクターのカードスロットには、次の PC カードをセットして使用できます。

- 無線 LAN カード（本製品同梱品のみ対応）
- メモリカード

使用できるカードの詳細仕様については「使用できるメモリカード」をご覧ください。➡ p.72

- 有線 LAN カード

使用できるカードの詳細については、「使用できる有線 LAN カード」をご覧ください。➡ p.72

セット方法



注意

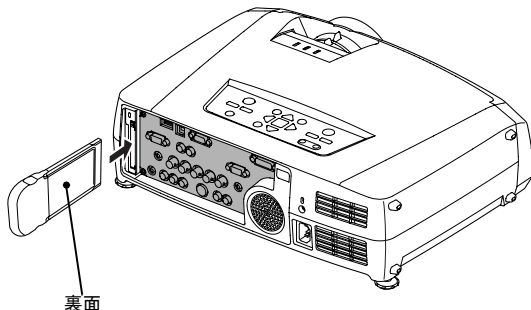
- PC カードは、正しい向きでセットしてください。逆向きや裏返しにしてセットすると故障や機器の破損の原因となります。
- プロジェクターを持ち運ぶときは、必ず事前にカードを抜いてください。

操作

無線 LAN カードの表面を外側に向けて、プロジェクターのカードスロットに差し込みます。

止まるところまでしっかり差し込んでください。

無線 LAN カードは止まるところまで押し込んでも、カードの先端部分はカードスロットの中に入りません。



取り出し方



注意

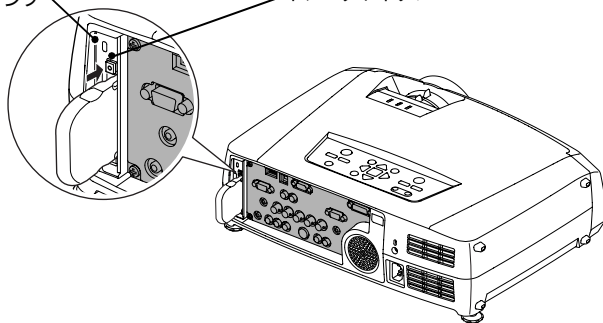
- プロジェクターのカードスロットアクセスランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中、シナリオ投写中は、PC カードを取り出さないでください。PC カード自体やメモリカードに保存されているデータが壊れることがあります。
- プロジェクターの使用直後は、PC カードが高温になっています。取り出しの際に不用意に触らないでください。やけどの原因となることがあります。
- CardPlayer 使用時にメモリカードを抜く場合は、必ず CardPlayer の終了操作を実行してから抜いてください。CardPlayer を終了しないでメモリカードを抜くと、CardPlayer が正しく動作しなくなる場合があります。☛『EasyMP 活用ガイド』『CardPlayer の終了方法』

操作

- 1 カードスロット上側のイジェクトボタンを押します。
イジェクトボタンが飛び出します。

カードスロット
アクセスランプ

イジェクトボタン



- 2 イジェクトボタンをもう一度、押し込みます。
無線 LAN カードが少し飛び出しますので、そのまま無線 LAN カードをまっすぐに引き抜きます。



注意

イジェクトボタンが出たままになっていると、折れるなど故障の原因となりますので、必ず押し込んでください。

アクセスランプの見方

カードスロットアクセスランプの見方

プロジェクターにメモ리카ードをセットしているときは、カードスロットアクセスランプの点灯状態と色で、次のようにメモ리카ードのアクセス状態を知らせます。

■:点灯 □:消灯

状態	アクセス状態
緑色 ■	メモ리카ードからデータを読み出しています。
消灯 □	メモ리카ードにアクセスしていません。
赤色 ■	メモ리카ードからデータを読み出し中に、異常が発生しました。

無線 LAN カードのアクセスランプの見方

プロジェクターに無線 LAN カードをセットしているときは、カードスロットアクセスランプは点灯しません。

ネットワークの通信状態は、次のように無線 LAN カードのアクセスランプで確認できます。

■:点灯 □:消灯

状態	通信状態
黄色 ■	無線 LAN カードが使用可能な状態になっています。
緑色 ■	データを送信しています。
消灯 □	電源が OFF になっているか、無線 LAN カードが正しくセットされていません。

有線 LAN カードのアクセスランプについては、ご使用の有線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

EasyMP Software のインストール

同梱の『EasyMP Software CD-ROM』から「EMP NS Connection」、「EMP SlideMaker2」、「EMP Monitor」を必要に応じ 1 つずつインストールできます。Windows 2000/NT4.0/XP を使っている場合は、管理者権限のユーザーに限りインストールが行えます。

インストールを実行する前に、常駐アプリケーションを終了してください。

操作

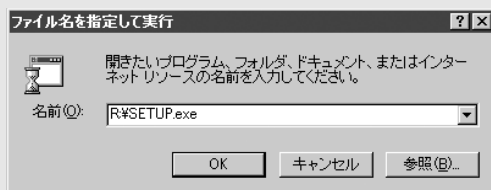
- 1 コンピュータの電源を入れて Windows を起動し、同梱の『EasyMP Software CD-ROM』をセットします。

セットアッププログラムが自動的に起動します。



ポイント

セットアッププログラムが起動しない場合は、「スタート」-「ファイル名を指定して実行」で「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスを開き、「R(CD-ROM のドライブ名): ¥SETUP.exe」と指定して「OK」ボタンをクリックしてください。



- 2 「EasyMP Software のインストール」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



3 インストールするソフトウェア名を選択して、「次へ」をクリックします。

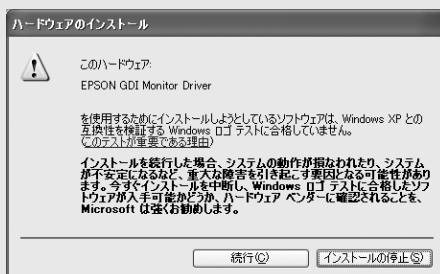


インストールが始まります。以降は画面の指示に従って進めてください。
すべてのソフトウェアを一括してインストールすることはできません。



注意

Windows 2000/XP へ EMP NS Connection をインストールしている途中で、次の画面が表示されます。



必ず「はい」(Windows 2000)または「続行」(Windows XP)を選択してください。「はい」または「続行」を選択しないと Network Screen が正常に動作しません。

「EPSON GDI Monitor Driver」がインストールされるとき、画面が一瞬消えることがありますが問題ありません。そのままインストールを続けてください。

4 インストールが終了すると、手順 3 の画面に戻ります。別のソフトウェアをインストールする場合は、目的のソフトウェア名を選択して「次へ」をクリックします。終了する場合は「終了」をクリックします。

ネットワーク接続してコンピュータの映像を投写する(Network Screen)

ここでは、ネットワーク経由でコンピュータと接続し、投写するまでの手順とツールバーの使い方、接続の切断方法を説明しています。

ネットワーク接続の種類	18
簡単接続モードで接続する	19
● 接続の前に	19
● 簡単接続モードでの接続手順	20
● プロジェクター側の接続設定	20
● コンピュータ側の接続設定	25
● コンピュータとの接続	25
● 接続時の制限事項	29
ツールバーの使い方	31
● 各アイコンの名称と働き	31
● E ズーム	33
● 基本設定	34
ネットワーク接続を切断する	36
● コンピュータから切断する	36
● プロジェクターから切断する	36
アクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードで接続する	37
● 接続の前に	37
● アクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードでの接続手順	38
● プロジェクター側の接続設定	38
● コンピュータ側の接続設定	48
● コンピュータとの接続	49
接続したいプロジェクターが表示されないときは	52
● IP アドレスを指定して接続	52
● グループを作成して接続	57
● グループの作成	57
● グループを使用して接続	61
● グループのエクスポート	64
● グループのインポート	65
データを暗号化して通信したいときは	67

ネットワーク接続の種類

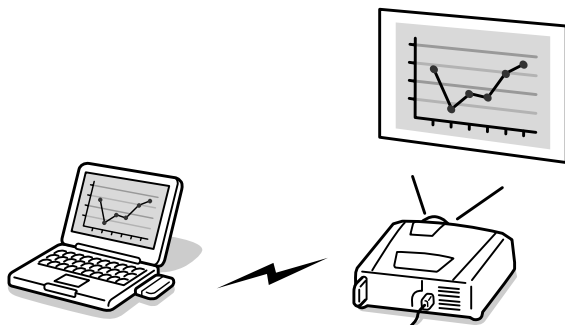
コンピュータとプロジェクターとのネットワークを介した接続には、以下の2通りがあります。

- **アドホックモード**で接続

コンピュータとプロジェクターで無線 LAN カードを使い、ピア・ツー・ピアで接続する方法です。

アクセスポイントを利用せず、機器間で直接通信を行います。

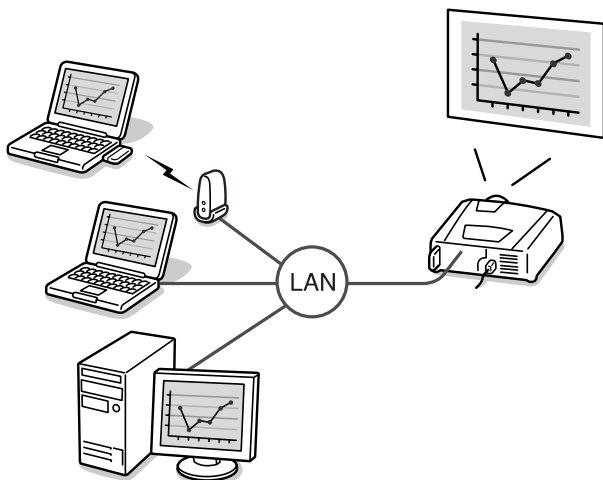
プロジェクターとコンピュータ側で、あらかじめ合言葉のような一致する言葉か、一致する番号を設定しておくだけで簡単に接続できます。



- **インフラストラクチャモード**で接続

無線 LAN カードを使ってアクセスポイントを利用したり、有線 LAN を使ったりして、クライアントサーバシステムの LAN にプロジェクターを接続する方法です。

LAN に接続しているコンピュータからプロジェクターを共有することができます。



簡単接続モードで接続する

ここでは、簡単接続モードでコンピュータの映像を投写するまでの手順と、投写時の操作、接続の切断について説明します。

投写するまでの手順は、以下の流れで説明します。

1. プロジェクターで簡単接続モードの設定をする。
2. コンピュータで接続設定をする。
3. コンピュータで EMP NS Connection を起動してネットワーク接続する。

接続設定は一度行えば、以降は接続操作だけで接続できます。初めて接続するときや設定を変更する場合は、「プロジェクター側の接続設定」(● p.20)からご覧ください。すでにプロジェクターもコンピュータも接続設定している場合は、「コンピュータとの接続」(● p.25)をご覧ください。

接続の前に

コンピュータとプロジェクターをネットワークを介して接続する前に、以下のことを確認してください。

- 使用するコンピュータに EMP NS Connection をインストールしておいてください。● p.15
- コンピュータ側の無線LANカード、あるいは内蔵の無線LAN機能を使用できる状態に設定しておいてください。このとき、WEPを OFF に設定しておいてください。設定方法はコンピュータにセットしている無線LANカード、あるいはコンピュータに添付の取扱説明書をご覧ください。
- 使用するコンピュータの画面解像度を XGA か、それ以下にし、色数設定を 16 ビットカラーにしておくこと最適なパフォーマンスでお使いになれます。

簡単接続モードでの接続手順



注意

- EasyMP 動作中(画面が切り替わったり、無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯中など)は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中は、無線 LAN カードを取り出さないでください。無線 LAN カードが壊れることがあります。

プロジェクター側の接続設定

最初にプロジェクターで簡単接続モードの接続設定をします。接続設定は、Network Screen の簡単接続モード詳細設定画面で行います。

ここでの接続設定の操作は、同梱のリモコンで行います。

すでに設定済みの場合は、ここでの設定は必要ありません。

操作

- 1 プロジェクターのカードスロットに無線 LAN カードをセットします。
詳細は「セット方法」をご覧ください。▶ p.12
- 2 リモコンの[電源]ボタンを押し、プロジェクターの電源を入れます。
- 3 リモコンの[EasyMP]ボタンを押しします。投写画面上に「EasyMP」と表示され EasyMP が起動して以下の画面になります。



ESSID 指定アドホックモード時の画面



プロジェクターのカードスロットに無線LANカードがセットされていないと、次の画面が表示されます。この場合は、無線LANカードをセットすると、手順3の画面が表示されます。



- 4** 画面右下の「環境設定」ボタンが選択されていることを確認し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。

ネットワーク詳細設定画面が表示されます。

- 5** 「簡単接続モード」にカーソルがあることを確認し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。

「簡単接続モード」が選択されます。



6 リモコンの[○]ボタンを右に傾けてカーソルを「詳細設定」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

簡単接続モード詳細設定画面が表示されます。

7 設定したい項目にカーソルを移動して、リモコンの[Enter]ボタンを押して項目を設定します。

各項目の設定内容は次の表のとおりです。

Network Screen

OK

キャンセル

ネットワーク

簡単接続モード詳細設定

基本設定

プロジェクター名

PROJECTOR01

クリア

アドホックモード設定

☒

ESSID指定アドホック

☐チャンネル指定アドホック

ESSID(ネットワーク名)

EPSON

チャンネル番号

11

WEBコントロール用パスワード

プロジェクターキーワード

☒

ON

☐OFF

MACアドレス

00:EQ:18:19:CD:CD

項目によっては文字や数値の入力が必要な場合があります。文字や数値の入力方法は「文字や数値の入力方法」( p.23)をご覧ください。

プロジェクター名	プロジェクター固有の名前を入力します。ネットワークに接続したとき、ここで入力した名前でのプロジェクターを識別します。 半角英数字で最大 16 文字まで入力できます。
アドホックモード設定	「ESSID 指定アドホック」または「チャンネル指定アドホック」のどちらかを選択します。必ず、接続するコンピュータと同じモードを選択してください。
ESSID ▶(ネットワーク名)	ESSID を入力します。初期値は EPSON です。 半角英数字で最大 16 文字入力できます。 必ず、接続するコンピュータと同じ語句(文字列)を入力します。

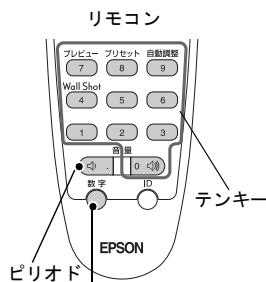
チャンネル ▶▶ 番号	チャンネルを選択します。初期値は 11 です。 1 ～ 14 のチャンネル番号を選択できます。※ 必ず、接続するコンピュータと同じチャンネル番号を設定します。 ※使用する国によって、使えないチャンネル番号があります。プロジェクターを販売した国で使えないチャンネル番号は、あらかじめ表示されないように設定されています。
WEB コントロール用パスワード	パスワードを設定しておくとし、EasyWeb を使うときと、EMP Monitor を起動したときに、パスワードの入力を求められます。 半角英数字で最大 8 文字まで有効です。
プロジェクターキーワード	プロジェクターキーワードを「ON」に設定していると、無線 LAN で接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。この機能を使うと、別室から届く無線 LAN の電波による意図しない接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常は「ON」に設定してお使いください。
MACアドレス ▶▶	セットした無線 LAN カードの MAC アドレスを表示します。

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

文字や数値の入力方法

文字や数値を入力するには、次の手順で行います。

1. 入力する項目にカーソルを移動して、リモコンの[Enter]ボタンを押します。カーソルが緑色になり、入力モードになります。
2. 数字のみを入力する場合は、リモコンの[数字]ボタンを押します。[数字]ボタンが点灯し右図のボタンがテンキーモードになり数字が入力できるようになります。また、文字が入力できる項目では、[α]ボタンを押すとピリオド(.)を入力できます。



ボタン点灯中は枠内のボタンがテンキーモードになります。



文字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを上へ傾けると、A～Z → 0～9 → 記号 → a～z → スペースの順で切り替わります。下へ傾けると、逆順で切り替わります。[○]を、傾けたままにするとキーリピートが働き、素早く目的の文字を選択できます。

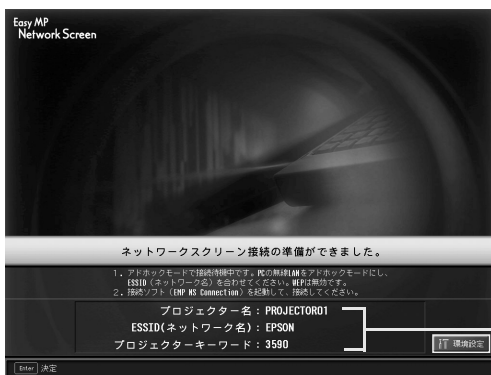
3. 2文字以上の文字や数字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを右へ傾けます。1番目の文字や数字が決定し、2番目の入力位置へカーソルが移動します。
4. 文字や数字をすべて入力したら、リモコンの[Enter]ボタンを押して入力を確定します。カーソルが黄色に変わります。

8 設定が終了したら、リモコンの[+]ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

設定内容が適用され、ネットワーク詳細設定画面に戻ります。

9 リモコンの[+]ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

接続待機画面に戻ります。設定した ESSID、またはチャンネル番号が表示されます。「プロジェクタキーワード」を「ON」に設定した場合は、プロジェクタキーワードも表示されます。



—— ここに表示されます。



ポイント

プロジェクターの電源を切って、次回電源を入れたときや、無線LANカードを取り出して再度セットするたびに、プロジェクタキーワードが変わります。コンピュータと接続するときには、必ず接続待機画面に表示されているプロジェクタキーワードを確認してから入力してください。前回のキーワードを入力しても接続できません。

コンピュータ側の接続設定

コンピュータの接続設定は、無線 LAN カードに添付のユーティリティソフトを使って行います。

Windows XP をお使いの場合は、ユーティリティソフトがなくても ESSID アドホックモードで通信できます。チャンネル指定アドホックモードで通信する場合は、ユーティリティソフトを使用します。

すでに設定済みの場合は、ここでの設定は必要ありません。

ユーティリティソフトの使用方法は、お使いの無線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

プロジェクター側で「ESSID▶指定アドホック」に設定した場合は、コンピュータ側も ESSID 指定アドホックモードにします。

プロジェクター側で「チャンネル▶指定アドホック」に設定した場合は、コンピュータ側もチャンネル指定アドホックモードにします。ESSID やチャンネル番号はプロジェクターの接続待機画面に表示されているものと同じになるように設定します。

コンピュータとの接続

接続設定が完了したら、コンピュータで EMP NS Connection を起動し、プロジェクターと接続します。一度接続設定を行えば、以降はこの接続操作から始められます。



ポイント

- EMP NS Connection を起動する前に、コンピュータに無線 LAN カードをセットしておいてください。EMP NS Connection 起動後に無線 LAN カードをセットすると、EMP NS Connection で無線 LAN カードが認識されません。
- コンピュータ側の無線 LAN カードや内蔵の無線 LAN 機能の設定で、WEP▶を OFF に設定しておいてください。
- EMP NS Connection の各画面に表示されている「❓」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。

操作

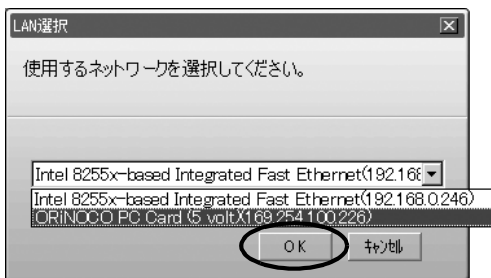
- 1 Windows で、「スタート」－「プログラム」－（または「すべてのプログラム」）－「EPSON Projector」－「EMP NS Connection」の順に選択します。
EMP NS Connection が起動します。



ポイント

PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。

- 2 EMP NS Connection をインストール後、初めて起動した場合は、接続に使用する無線 LAN カードを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



ポイント

- プロジェクター側のネットワーク設定で、IP アドレス▶を設定していない場合は、「ネットワークアダプターの情報取得に失敗しました…」とメッセージが表示されることがあります。これは DHCP▶サーバと接続できないときに、IP アドレスを決定するまでに時間がかかるためです。約 60 秒間たってから、再び手順 1 から操作をやり直してください。
- この LAN 選択画面で、使用するネットワークアダプタを選択すると、以降 EMP NS Connection を起動してもこの画面は表示されません。使用するネットワークアダプタを変更したい場合は、接続プロジェクター選択画面（手順3の画面）で「拡張機能」ボタンをクリックします。表示された拡張機能画面で「LAN 切替」ボタンをクリックすると、LAN 選択画面が表示されます。

3 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。

プロジェクター名は、プロジェクターの接続待機画面に表示されています。



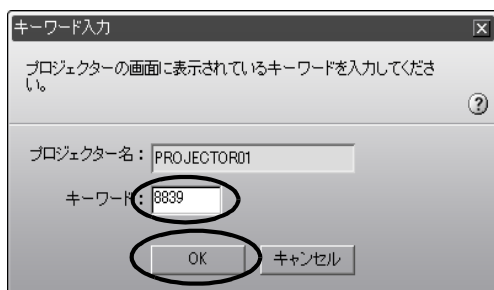
アイコンの色によって以下の
ように状態が異なります。
グレー : 未接続
オレンジ : 他のコンピュータと
接続中



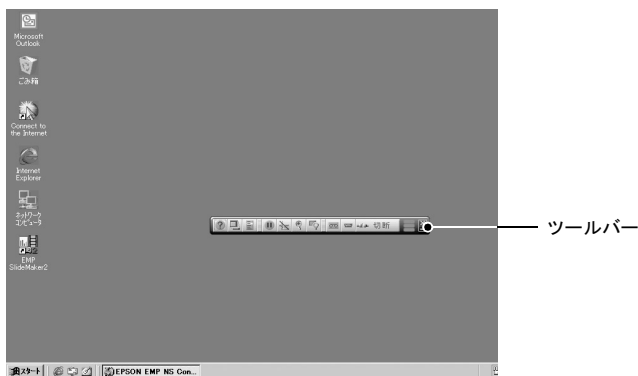
ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、自動的に先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

4 「プロジェクターキーワード」を「ON」に設定した場合は、プロジェクターの接続待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。



5 コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。



コンピュータの画面には、EMP NS Connection のツールバーが表示されます。このツールバーを使って、プロジェクターの操作や設定をしたり、ネットワーク接続を切断したりできます。●p.31

プレゼンテーションを行う際にツールバーが不都合になる場合は、ツールバーを最小化することができます。この場合は、リモコンでプロジェクターの操作や設定を行います。●『取扱説明書』「映り具合を選ぶ（カラーモード選択）」、「応用編」

この後の投写映像の調整や各機能については、●『取扱説明書』「投写画面を調整しよう」以降をご覧ください。



ポイント

- PowerPoint ファイルを投写している場合は、リモコンのページ[↑][↓]ボタンを押して前のスライドに戻す / 次のスライドに送ることができます。
- プレゼンターターの交代など、引き続き別のコンピュータから接続する場合は、接続したいコンピュータで EMP NS Connection を起動して接続してください。接続中のコンピュータとの接続が自動的に切断され、後から接続しようとしたコンピュータと接続します。

接続時の制限事項

Network Screen でコンピュータの映像を投写するときは、以下の制限事項があります。ご確認ください。

対応解像度

投写可能なコンピュータの画面解像度は、次のとおりです。次の解像度の場合は、コンピュータに表示されている映像をそのまま投写できます。UXGA を超える解像度のコンピュータとは接続できません。

- VGA(640 × 480)
- SVGA(800 × 600)
- XGA(1024 × 768)
- SXGA(1280 × 960)
- SXGA(1280 × 1024)
- SXGA+(1400 × 1050)
- UXGA(1600 × 1200)

コンピュータの解像度が XGA を超えると、以下のメッセージが表示されます。

パソコンの画面の領域が XGA (1024 × 768pixel) より大きい場合、画像転送のパフォーマンスが低下します。接続処理を続行しますか？

「はい」をクリックすると接続しますが、表示速度は遅くなります。

また、以下のメッセージが表示された場合は、コンピュータの解像度を SXGA 以下に設定してから接続してください。

SXGA を超える解像度をサポートしていないプロジェクターがあります。パソコンの解像度を下げて再接続してください。

1280 × 600 など、縦横比が特殊な画面のコンピュータの場合は、前述の対応解像度 7 種類のうちから横方向の画素数が一致する解像度で投写されます。このとき、縦方向の余白部分は黒く投写されます。

表示色

投写可能なコンピュータの画面の色数は、次のとおりです。

- 8 ビットカラー (256 色)
- 16 ビットカラー
- 24 ビットカラー
- 32 ビットカラー

ただし、24 ビット・32 ビットカラーに設定している場合は、以下のメッセージが表示されます。

パソコンの画面の色が24ビット以上の場合、画像転送のパフォーマンスが低下します。NS Connection はパフォーマンスの低下を軽減するために 16 ビットに変換して接続します。接続処理を続行しますか？

「はい」をクリックすると接続しますが、投写画面は 16 ビットカラーになります。

接続台数

1 台のコンピュータに、最大 4 台までのプロジェクターを接続して同時に映像を投写できます。

複数のコンピュータから 1 台のプロジェクターに同時に接続することはできません。

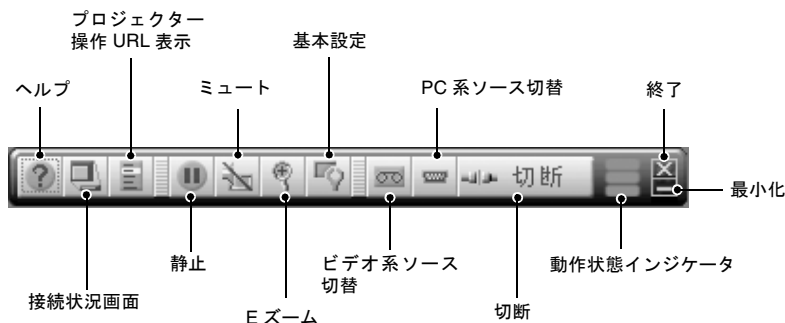
その他

- 無線 LAN の通信速度が低速の場合、接続しても切断されやすい状態となり、予期しないときに切断されることがあります。
- 音声は伝送されません。
- 動画を再生する場合、コンピュータ上で再生した場合と比べて、スムーズに再生されません。
- DirectX の一部の機能を使っているアプリケーションは、正しく表示できない場合があります。
- MS-DOS プロンプトの全画面表示は投写できません。

ツールバーの使い方

各アイコンの名称と働き

コンピュータとプロジェクターをネットワーク接続すると、次のツールバーがコンピュータの画面に表示されます。



各アイコンの働きは以下のとおりです。

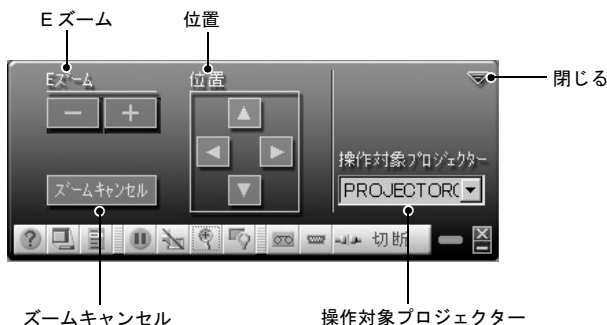
	ヘルプ	EMP NS Connection のヘルプを表示します。
	接続状況画面	クリックするたびに、接続状況画面の表示 / 非表示を切り替えます。接続状況画面を表示すると、現在接続しているプロジェクター名のアイコンが緑に表示されています。接続状況画面では、接続切り替えや追加して接続するなどの操作はできません。
	プロジェクター操作 URL 表示	EasyWeb が表示されます。 ●『EasyMP 活用ガイド』『コンピュータから設定・監視・制御をする』
	静止	映像を一時停止します。 動画の場合は、停止している間もコンピュータ側の映像は進んでいるため、停止したときの場面からは再開できません。 プロジェクター本体の静止機能と同じ機能です。 ●『取扱説明書』『静止機能』
	ミュート	映像と音声を一時的に消します。 例えば、コンピュータの映像を投写中にファイルの切り替えを行うなど、見ている人に操作内容を表示したくない場合に使用すると便利です。ただし、動画の場合は消している間もコンピュータ側の映像は進んでいるため、消したときの場面からは再開できません。 プロジェクター本体のA/Vミュート機能と同じ機能です。●『取扱説明書』『A/Vミュート機能』



	E ズーム	投写サイズを変えずに、見たい部分を拡大します。設定画面を表示して、位置や倍率を設定できます。  p.33 プロジェクター本体の E ズーム機能と同じ機能です。『取扱説明書』『E ズーム機能』
	基本設定	設定画面を表示して、明るさ、台形補正、コントラスト、カラーモードを設定できます。 p.34 明るさ、コントラスト、カラーモードは、プロジェクター本体の環境設定メニューの「映像」メニューで設定する項目と同じです。『取扱説明書』『映像メニュー』 台形補正は、プロジェクター本体の[台形補正]ボタンと同じ機能です。『取扱説明書』『投写画面のゆがみを補正しよう(台形補正)』
	ビデオ系ソース切替	アイコンをクリックするたびに、プロジェクターで投写する入力信号を、プロジェクター背面の[S-ビデオ]端子、[ビデオ]端子、[BNC]端子の順に切り替えます。 複数台のプロジェクターに接続しているときは使用できません。 本体操作パネルの[ビデオ/BNC]ボタンと同じ機能です。『取扱説明書』『電源 ON、投写開始』
	PC 系ソース切替	アイコンをクリックするたびに、プロジェクターで投写する入力信号を、プロジェクター背面の[コンピュータ]端子、[DVI]端子の順で切り替えます。 複数台のプロジェクターに接続しているときは使用できません。 本体操作パネルの[コンピュータ/DVI]ボタンと同じ機能です。 『取扱説明書』『電源 ON、投写開始』
	切断	現在通信中のプロジェクターとのネットワーク接続を切断します。
	動作状態インジケータ	コンピュータとプロジェクターがネットワーク接続しているときに、上、中、下の各インジケータが交互に点滅します。正しく接続できていないときは消灯しています。
	終了	現在通信中のプロジェクターとのネットワーク接続を切断し、EMP NS Connection を終了します。
	最小化	ツールバーが最小化され、Windows のタスクバーにボタンとして表示されます。

E ズーム

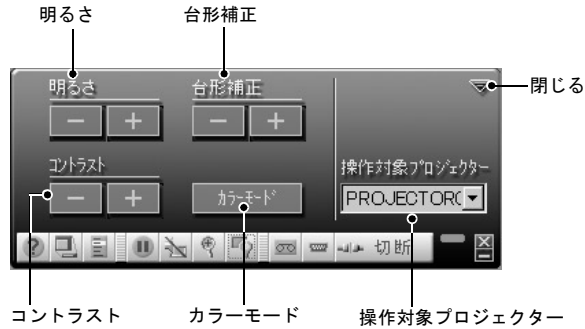
「E ズーム」アイコンをクリックすると、次の設定画面が表示され、ズーム倍率や位置などの調整ができます。



E ズーム	E ズームの倍率を調整します。 「+」ボタン: 拡大する 「-」ボタン: 拡大した結果を縮小する リモコンの[⊕][⊖]ボタンと同じ機能です。
位置	拡大 / 縮小表示する部分を指定します。 プロジェクター本体の E ズーム機能で、ターゲットスコープを移動して拡大や縮小をする部分を指定する機能と同じです。●『取扱説明書』「E ズーム機能」
ズームキャンセル	E ズームを解除して元の表示に戻ります。
操作対象プロジェクター	操作対象のプロジェクター名を表示しています。 複数のプロジェクターに接続している場合は、E ズームの操作をするプロジェクターを選択します。
閉じる	この画面を閉じます。

基本設定

「基本設定」アイコンをクリックすると、次の設定画面が表示され、明るさ、台形補正、コントラスト、カラーモードの調整ができます。



明るさ	投写映像の明るさを調整します。 「+」ボタン:明るくなる 「-」ボタン:暗くなる
台形補正	「+」ボタン:上辺が狭くなる 「-」ボタン:底辺が狭くなる 本体の[△][▽]ボタンと同じ動きをします。
コントラスト	画面の明暗の差を調整します。 「+」ボタン:明暗の差が大きくなる 「-」ボタン:明暗の差が小さくなる
カラーモード	映像の特徴に合わせた次の5種類の設定があらかじめ記録されています。投写映像に応じて選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが異なります。「カラーモード」ボタンをクリックするたびに、以下のように設定が切り替わります。
操作対象プロジェクター	操作対象のプロジェクター名を表示しています。複数のプロジェクターに接続している場合は、基本設定を行うプロジェクターを選択します。
閉じる	この画面を閉じます。



ポイント

- 台形補正をすると画面が小さくなります。
- 台形補正でムラが目立つ場合は、シャープネスを下げてください。
●『取扱説明書』『映像メニュー』
- 台形補正はプロジェクター本体の環境設定メニューでも調整できます。●『取扱説明書』『設定メニュー』
- 台形補正を行っているときに、画面に表示されるゲージの値が変化しなくなったら、台形補正量の限界に達したことを示しています。プロジェクターを制限以上に傾けて設置していないか確認してください。
●『取扱説明書』『投写画面のゆがみを補正しよう(台形補正)』

ネットワーク接続を切断する

コンピュータとプロジェクターのネットワークを介した接続を切断するには、コンピュータから切断する方法と、プロジェクターで切断する方法の 2 つがあります。



ポイント

投写しているコンピュータの映像は、本プロジェクターには保存されません。下記のいずれかの操作で切断を行うと、内部の映像データはすべて破棄されます。

コンピュータから切断する

ツールバーで、「切断」または「終了」のアイコンをクリックします。



「切断」アイコンをクリックすると、ネットワーク接続の切断のみを行います。

「終了」アイコンをクリックすると、ネットワーク接続を切断して EMP NS Connection を終了します。



ポイント

複数台のプロジェクターと接続しているコンピュータで切断の操作をすると、すべてのプロジェクターとの接続が切断されます。

プロジェクターから切断する

操作

- 1 リモコンの[ESC]ボタンを押します。
終了メニューが表示されます。
- 2 「終了する」ボタンを選択して、リモコンの[Enter]ボタンを押します。
切断するコンピュータの画面に「接続中のプロジェクターはプロジェクター側から切断されました。」と表示されます。

アクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードで接続する

コンピュータとプロジェクターをネットワークを介して接続するには、簡単接続モードのほかにアクセスポイントモードと有線 LAN 接続モードがあります。

アクセスポイントモードは、既存のネットワークシステムに接続された無線 LAN アクセスポイントを経由して、コンピュータと接続するモードです。

有線 LAN 接続モードは、プロジェクターにセットした有線 LAN カードと、ネットワークシステムに接続するコネクタをネットワークケーブルで接続し、ネットワークに参加しているコンピュータと接続するモードです。

どちらのモードも、普段、コンピュータをアクセスポイントまたは社内 LAN などのネットワークシステムに接続して使っている場合は、コンピュータ側の LAN の設定はそのままでプロジェクター側のみ設定を行います。

これらの方法で接続すると、コンピュータの映像をプロジェクターから投写できるに加えて、EMP Monitor やメール通知機能を使ってプロジェクターの状態をコンピュータから監視することができます。●『EasyMP 活用ガイド』『EMP Monitor を使って監視や制御をする』

アクセスポイントモードと有線 LAN 接続モードは接続設定がほとんど同じため、ここでは一緒に説明します。

接続の前に

コンピュータとプロジェクターをネットワークを介して接続する前に、以下のことを確認してください。

- 使用するコンピュータに EMP NS Connection をインストールしておいてください。● p.15
- コンピュータ側の LAN カード、あるいは内蔵の LAN 機能を使用できる状態に設定しておいてください。設定方法はコンピュータにセットしている LAN カード、あるいはコンピュータに添付の取扱説明書をご覧ください。
- 使用するコンピュータの画面解像度を XGA か、それ以下にし、色数設定を 16 ビットカラーにしておくこと最適なパフォーマンスでお使いになれます。

アクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードでの接続手順



注意

- EasyMP 動作中(画面が切り替わったり、無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯中など)は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中は、無線 LAN カードを取り出さないでください。無線 LAN カードが壊れることがあります。
- 有線 LAN カードのアクセスランプについては、ご使用の有線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

プロジェクター側の接続設定

最初にプロジェクターの接続設定をします。接続設定は、Network Screen のアクセスポイントモード詳細設定画面または有線 LAN 詳細設定で行います。ここでの接続設定の操作は、同梱のリモコンで行います。すでに設定済みの場合は、ここでの設定は必要ありません。



以降の設定作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。

操作

- 1 プロジェクターのカードスロットに LAN カードをセットします。
詳細は「セット方法」をご覧ください。▶ p.12
- 2 リモコンの[電源]ボタンを押し、プロジェクターの電源を入れます。

- 3** リモコンの[EasyMP]ボタンを押します。投写画面上に「EasyMP」と表示され、EasyMP が起動して以下の画面になります。



ESSID 指定アドホックモード時の画面



ポイント

プロジェクターのカードスロットにLANカードがセットされていないと、以下の画面が表示されます。LANカードをセットすると、手順3の画面が表示されます。



- 4** 画面右下の「環境設定」ボタンが選択されていることを確認し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。
- 無線 LAN カードをセットしている場合は、ネットワーク詳細設定画面が表示されます。手順5に進みます。
- 有線 LAN カードをセットしている場合は、有線 LAN 詳細設定画面が表示されます。手順7に進みます。

- 5** 「アクセスポイントモード」にカーソルがあることを確認し、リモコンの [Enter] ボタンを押します。
「アクセスポイントモード」が選択されます。



- 6** リモコンの[⦿]ボタンを右に傾けてカーソルを「詳細設定」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。
アクセスポイントモード詳細設定画面が表示されます。

7 設定したい項目にカーソルを移動しリモコンの[Enter]ボタンを押して項目を設定します。

プロジェクターがネットワークに参加できるように設定します。
設定項目は、「基本設定」、「メール」、「SNMP」、「WEP」の 4 種類に分けられます。有線 LAN 詳細設定画面では「WEP」は表示されません。
各項目の設定内容は次の表のとおりです。
項目によっては文字や数値の入力が必要な場合があります。文字や数値の入力方法は「文字や数値の入力方法」(●p.47)をご覧ください。



ポイント

Web ブラウザからプロジェクターの設定・制御用ブラウザページにアクセスして、そのページ上でネットワーク設定をする方法(EasyWeb)もあります。EasyWeb では、キーボードを使って入力できるため、リモコンでの入力が面倒なときに便利です。●『EasyMP 活用ガイド』「Web ブラウザを使って設定を変更する」

基本設定

Network Screen

OK キャンセル

ネットワーク アクセスポイントモード詳細設定 基本設定

基本設定

メール

SNMP

WEP

プロジェクト名 PROJECTOR01 クリア

ESSID(ネットワーク名) EPSON

WEBコントロール用パスワード

プロジェクトキーワード ☒ ON ☐ OFF

DHCP機能 ☐ ON ☒ OFF

IPアドレス 169.254.146.019

サブネットマスク値 000.000.000.000

ゲートウェイアドレス 169.254.146.001

MACアドレス 00:E0:18:19:C0:C0

Enter 決定 選択 戻る 機上段へ移動

プロジェクト名	プロジェクト固有の名前を入力します。ネットワークに接続したとき、ここで入力した名前プロジェクトを識別します。 半角英数字で最大 16 文字まで入力できます。
ESSID (ネットワーク名)	有線 LAN 詳細設定画面では表示されません。ESSID を入力します。プロジェクトが参加する無線 LAN システムで ESSID が定められている場合は、その ESSID を入力します。 初期値は EPSON です。 半角英数字で最大 16 文字まで入力できます。
WEB コントロール用パスワード	パスワードを設定しておくと、EasyWeb を使うとき、EMP Monitor を起動したときに、パスワードの入力を求められます。 半角英数字で最大 8 文字まで有効です。
プロジェクトキーワード	プロジェクトキーワードを「ON」に設定していると、ネットワーク経由で接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。この機能を使うと、別室から届く無線 LAN の電波などによる意図しない接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常は「ON」に設定してお使いください。

<u>DHCP</u> ▶機能	DHCP の使用を設定します。 「ON」:DHCP を使用する 「OFF」:DHCP を使用しない
<u>IP アドレス</u> ▶	プロジェクターに割り当てる IP アドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには 0 ～ 255 の数字を入力できます。ただし、以下の IP アドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0 ～ 255.255.255.255 (x は 0 ～ 255 の数字)
<u>サブネットマスク</u> ▶値	プロジェクターのサブネットマスクを入力します。 アドレスの各フィールドには 0 ～ 255 の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 1.x.x.x ～ 254.x.x.x、255.255.255.255 (x は 0 ～ 255 の数字)
<u>ゲートウェイ</u> ▶アドレス	プロジェクターのゲートウェイの IP アドレスを入力します。アドレスの各フィールドには 0 ～ 255 の入力を選択できます。ただし、以下のゲートウェイアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0 ～ 255.255.255.255 (x は 0 ～ 255 の数字)
<u>MAC アドレス</u> ▶	セットした LAN カードの MAC アドレスを表示します。

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

メール



メール通知機能	メール通知を行う場合に「ON」を選択します。
SMTP サーバ IP	プロジェクターが使う SMTP サーバの IP アドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには 0～255 の数字を入力できます。ただし、以下の IP アドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)
ポート番号	SMTP サーバのポート番号を入力します。初期値は 25 です。 1 ～ 65535 までの有効な数値を入力できます。
宛先メールアドレス 1/2/3	通知メールの送信先のメールアドレスを、最大 3 件まで登録できます。 半角英数字で最大 53 文字まで入力できます。
通知イベントの指定	メールで通知するプロジェクターの異常 / 警告を選択します。選択した異常 / 警告がプロジェクターで起きたときに、「宛先メールアドレス」で指定したメールアドレスに異常 / 警告が発生したことを通知します。 以下の項目より複数選択できます。 ・内部異常 ・ファン異常 ・センサ異常 ・ランプ点灯失敗 ・ランプ切れ ・ランプカバー開状態 ・内部高温異常 ・高速冷却中 ・ランプ交換勧告 ・ノーシグナル

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

SNMP

The screenshot shows a 'Network Screen' window with a sidebar on the left containing 'ネットワーク' (Network), '基本設定' (Basic Settings), 'メール' (Mail), 'SNMP', and 'WEP'. The main area is titled 'アクセスポイントモード詳細設定' (Access Point Mode Detailed Settings) and 'SNMP'. It contains two input fields: 'SNMPトラップIPアドレス1' (SNMP Trap IP Address 1) and 'SNMPトラップIPアドレス2' (SNMP Trap IP Address 2), both with the value '000.000.000.000'. A 'クリア' (Clear) button is next to the first field. At the bottom, there are navigation buttons: 'Enter 決定' (Enter Confirm), '方向キー 選択' (Direction Key Select), 'ESC 戻る' (ESC Back), and '方向キー 最上段へ移動' (Direction Key Move to Top Line).

SNMP ▶ トラップ IP アドレス ▶ 1/2

SNMP の トラップ ▶ を通知するコンピュータの IP アドレスを入力します。

「SNMP トラップ IP アドレス 1」で指定した IP アドレスに通知できなかった場合、「SNMP トラップ IP アドレス 2」で指定した IP アドレスに通知されます。アドレスの各フィールドには 0 ～ 255 の数字を入力できます。

ただし、以下の IP アドレスは使用できません。

127.x.x.x、224.0.0.0 ～ 255.255.255.255 (x は 0 ～ 255 の数字)

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

WEP

有線 LAN 接続モードの場合は表示されません。



WEP▶▶暗号	WEP 暗号化の使用と不使用の設定と、使用の場合は暗号方式を設定します。 「OFF」:WEP 暗号化をしない 「128bit」:128bit 暗号化を使用する 「40bit」:40bit 暗号化を使用する
入力方式	WEP 暗号キーの入力方式を設定します。 「HEX」 :HEX (16 進) 入力 テキストによる WEP 暗号設定の方法は、アクセスポイントにより異なります。そのため、プロジェクターが参加するネットワークの管理者に確認し、まず「Text1」を選択して設定してみてください。その設定で正しく暗号化されない場合は、「Text2」や「Text3」を選択して設定してみてください。
キーID	「WEP 暗号」で「40bit」を選択したときに設定できます。 WEP 暗号 ID キーを「0」、「1」、「2」、「3」のいずれかから選択します。 「WEP 暗号」で「128bit」を選択したときは、「0」になります。

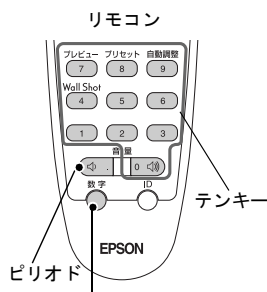
暗号キー	WEP 暗号に使用するキーを入力します。プロジェクターが参加するネットワークの管理者の指示に従って、キーを入力します。「WEP 暗号」と「入力方式」の設定により、入力文字と文字数が次のように異なります。 下記でそれぞれ規制している文字数に満たなかった場合と、文字数を超える部分は暗号化されません。 「128bit」－「HEX」の場合：半角の 0～9 と A～F、26 文字まで 「40bit」－「HEX」の場合：半角の 0～9 と A～F、10 文字まで 「128bit」－「Text1/2/3」の場合：半角英数字、13 文字まで 「40bit」－「Text1/2/3」の場合：半角英数字、5 文字まで
------	---

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

文字や数値の入力方法

文字や数値を入力するには、次の手順で行います。

1. 入力する項目にカーソルを移動して、リモコンの[Enter]ボタンを押します。カーソルが緑色になり、入力モードになります。
2. 数字のみを入力する場合は、リモコンの[数字]ボタンを押します。[数字]ボタンが点灯し右図のボタンがテンキーモードになり数字が入力できるようになります。また、文字が入力できる項目では、[4]ボタンを押すとピリオド(.)を入力できます。



ボタン点灯中は枠内のボタンがテンキーモードになります。

文字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを上へ傾けると、A～Z→0～9→記号

→a～z→スペースの順で切り替わります。下へ傾けると、逆順で切り替わります。[○]を、傾けたままにするとキーリピートが働き、素早く目的の文字を選択できます。

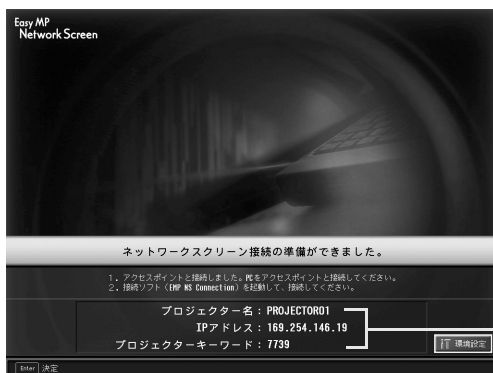
3. 2 文字以上の文字や数字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを右へ傾けます。1 番目の文字や数字が決定し、2 番目の入力位置へカーソルが移動します。
4. 文字や数字をすべて入力したら、リモコンの[Enter]ボタンを押して入力を確定します。カーソルが黄色に変わります。

- 8 設定が終了したら、リモコンの[+]ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

設定内容が適用され、ネットワーク詳細設定画面に戻ります。

- 9 リモコンの[+]ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

接続待機画面に戻ります。設定した IP アドレスが表示されます。「プロジェクターキーワード」を「ON」に設定した場合は、プロジェクターキーワードも表示されます。



ここに表示されます。



ポイント

プロジェクターの電源を切って、次回電源を入れたときや、LANカードを取り出して再度セットするたびに、プロジェクターキーワードが変わります。コンピュータと接続するときには、必ず接続待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認してから入力してください。前回のキーワードを入力しても接続できません。

コンピュータ側の接続設定

コンピュータの接続設定は LAN カードに添付のユーティリティソフトを使って行います。

すでに設定済みの場合は、ここでの設定は必要ありません。

ユーティリティソフトの使用方法は、お使いの LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

コンピュータがネットワークに参加できるように設定します。

コンピュータとの接続

接続設定が完了したら、コンピュータで EMP NS Connection を起動し、プロジェクターと接続します。一度接続設定を行えば、以降はこの接続操作から始められます。



ポイント

- EMP NS Connection を起動する前に、コンピュータに LAN カードをセットしておいてください。EMP NS Connection 起動後に LAN カードをセットすると、EMP NS Connection で LAN カードが認識されません。
- EMP NS Connection の各画面に表示されている「」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。

操作

- 1 Windows で、「スタート」-「プログラム」(または「すべてのプログラム」)-「EPSON Projector」-「EMP NS Connection」の順に選択します。

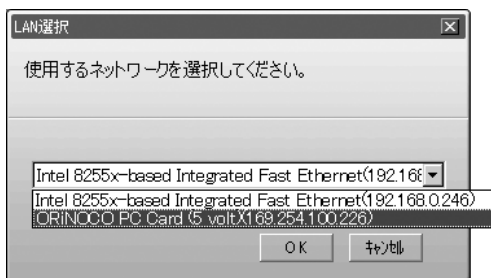
EMP NS Connection が起動します。



ポイント

PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。

- 2 EMP NS Connection をインストール後、初めて起動した場合は、接続に使用する LAN カードを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



ポイント

このLAN選択画面で、使用するネットワークアダプタを選択すると、以降 EMP NS Connection を起動してもこの画面は表示されません。使用するネットワークアダプタを変更したい場合は、接続プロジェクター選択画面(手順3の画面)で「拡張機能」ボタンをクリックします。表示された拡張機能画面で「LAN 切替」ボタンをクリックすると LAN 選択画面が表示されます。



3 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。

プロジェクター名は、プロジェクターの接続待機画面に表示されています。



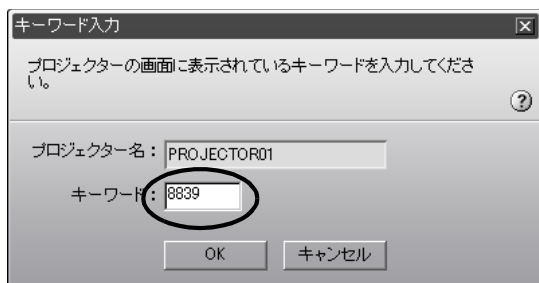
アイコンの色によって以下のように状態が異なります。
 グレー : 未接続
 オレンジ : 他のコンピュータと接続中



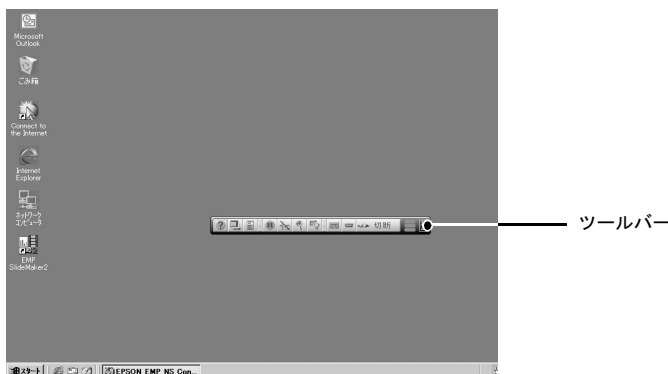
ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、自動的に先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大 4 台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

4 「プロジェクターキーワード」を「ON」に設定した場合は、プロジェクターの接続待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。



5 コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。



コンピュータの画面には、EMP NS Connection のツールバーが表示されます。このツールバーを使ってプロジェクターの操作や設定をしたり、ネットワーク接続を切断したりできます。➡ p.31

プレゼンテーションを行う際にツールバーが不都合になる場合は、ツールバーを最小化することができます。この場合は、リモコンでプロジェクターの操作や設定を行います。➡『取扱説明書』「映り具合を選ぶ(カラーモード選択)」、「応用編」

Network Screen でコンピュータの映像を投写するときは、画面の解像度や色数などで制限があります。制限事項については「接続時の制限事項」をご覧ください。➡ p.29

この後の投写映像の調整や各機能については、『取扱説明書』「投写画面を調整しよう」以降をご覧ください。



ポイント

- PowerPoint ファイルを投写している場合は、リモコンのページ[↑] [↓]ボタンを押して前のスライドに戻す / 次のスライドに送ることができます。
- プレゼンター交代など、引き続き別のコンピュータから接続する場合は、接続したいコンピュータで EMP NS Connection を起動して接続してください。接続中のコンピュータとの接続が自動的に切断され、後から接続しようとしたコンピュータと接続します。

接続したいプロジェクターが表示されないときは

接続したいプロジェクターが EMP NS Connection のプロジェクター選択画面に表示されない場合は、次の点を確認してください。

- 無線 LAN 接続の場合、電波が届かない、あるいは弱くありませんか？
- 接続モードを正しく設定していますか？
- サブネットが異なっていませんか？

簡単接続モードの場合は、次の点も確認してください。

- コンピュータとプロジェクターで同一の **ESSID**▶を設定していますか？
- コンピュータとプロジェクターで同一の **チャンネル**▶番号を設定していますか？

サブネットが異なるネットワーク上のプロジェクターに接続する場合は、「IP 指定接続モード」を使うと接続できます。IP 指定接続モードは、接続したいプロジェクターの **IP アドレス**▶を指定して接続する方法です。

IP アドレスを指定して接続

次の手順で、IP 指定接続モードの接続をします。



ポイント

- プロジェクターの IP アドレスと、コンピュータの IP アドレスが異なるサブネットに所属していた場合、EMP NS Connection のプロジェクター選択画面にプロジェクター名が表示されません。
- EMP NS Connection の各画面に表示されている「(?)」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。



注意

- EasyMP 動作中（画面が切り替わったり、無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯中など）は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中は、無線 LAN カードを取り出さないでください。無線 LAN カードが壊れることがあります。
- 有線 LAN カードのアクセスランプについてはご使用の有線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

操作

- 1 アクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードで、プロジェクターとコンピュータの接続設定をします。▶ p.38
- 2 コンピュータで、「スタート」―「プログラム」―「EPSON Projector」―「EMP NS Connection」の順に選択します。
EMP NS Connection が起動します。

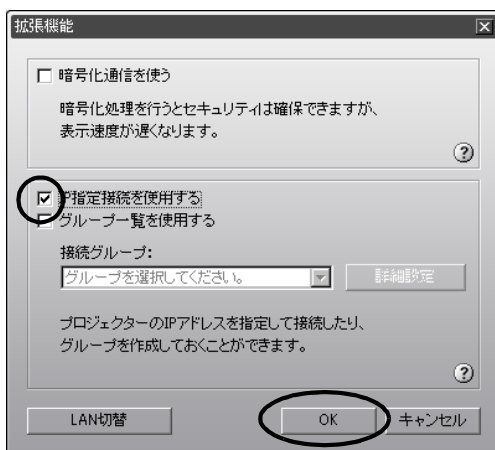


PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。

3 次の画面で、「拡張機能」ボタンをクリックします。



4 拡張機能画面が表示されます。「IP 指定接続を使用する」をクリックしてチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。



- 5** 以下の画面が表示されます。画面の右上に表示されている「IP 指定接続」をクリックします。



- 6** 「IP アドレス」に接続したいプロジェクターの IP アドレスを入力し、「検索」ボタンをクリックします。



7 IP アドレスが「登録プロジェクター」に追加され、検索中であることを示すアイコンが表示されます。プロジェクターが見つかったら、「登録プロジェクター」にプロジェクター名が表示されます。さらにプロジェクターを検索したい場合は、手順 6 を繰り返します。

検索したプロジェクターは、「登録プロジェクター」に追加されていきます。



アイコンの色と形によって以下のように状態が異なります。

-  (グレー): 未接続
-  (オレンジ): 他のコンピュータと接続中
-  : 現在検索中
-  : 検索したが見つからなかったもの



- 最大 16 台までプロジェクターを追加できます。17 台以上追加すると、最初に追加したものから削除されます。接続できるプロジェクターの台数は最大 4 台までです。
- EMP NS Connection を終了して次回起動したときは、「登録プロジェクター」に追加したプロジェクターは消去されています。次回以降も同じプロジェクターを表示したい場合は、グループを作成して目的のプロジェクターを登録してください。● p.57

8 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。



ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。

グループを作成して接続

EMP NS Connection では最大 16 台までのプロジェクターを 1 つのグループに登録できます。頻繁にネットワーク経由で接続するプロジェクターをグループに登録しておき、接続時にグループを使用すれば、登録されているプロジェクターを簡単に呼び出してすぐに接続することができます。

例えば、全支店にそれぞれネットワーク接続したプロジェクターがある環境で、特定のエリアにある支店のプロジェクターに投写したい場合は、エリア内の支店のプロジェクターを 1 つのグループに登録しておきます。一度グループに登録すれば、接続時にグループを指定するだけで目的の支店のプロジェクターと接続できるため、接続のたびにプロジェクターを 1 つずつ検索する手間を省けます。

グループ情報はファイルへの書き出し(エクスポート)と読み込み(インポート)ができます。ネットワーク管理者が作成しエクスポートしたグループから、必要に応じて接続したいグループをインポートすれば、簡単に目的のプロジェクターと接続できます。



ポイント

EMP NS Connection の各画面に表示されている「(?)」をクリックすると、ヘルプが表示され、機能の説明を見ることができます。

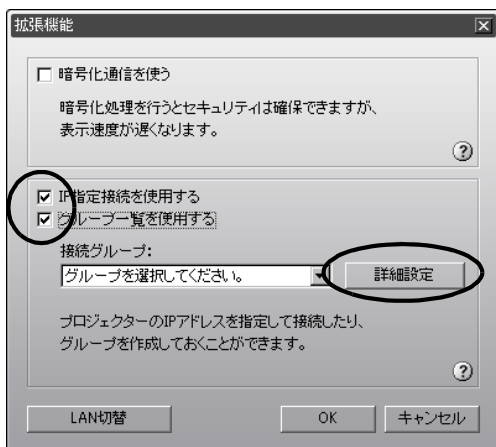
グループの作成

次の手順でグループを作成します。

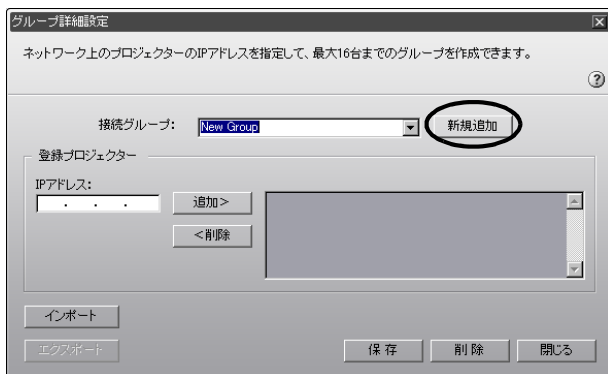
操作

- 1 「IP アドレスを指定して接続」の手順 1 ～ 3 を実行します。➡ p.52

- 2** 拡張機能画面が表示されます。「IP 指定接続を使用する」と「グループ一覧を使用する」をクリックしてチェックマークを付け、「詳細設定」ボタンをクリックします。



- 3** グループ詳細設定画面が表示されます。グループを新規作成する場合は「新規追加」をクリックします。
「接続グループ」に「New Group」と表示され、「IP アドレス」と登録プロジェクターの一覧が消去されます。





ポイント

- 既存のグループに登録されているプロジェクターを変更する場合は、「接続グループ」でグループ名を選択し、手順5に進みます。
- グループ作成中または編集中に「新規追加」ボタンをクリックすると、「編集中のグループが登録されていません。登録しますか？」というメッセージが表示されます。「はい」をクリックすると作業中のグループが保存されます。「いいえ」をクリックすると作業中のグループは保存されずに破棄されます。

4 「接続グループ」にグループ名を入力します。

5 「IP アドレス」に登録したいプロジェクターの IP アドレスを入力し、「追加>」ボタンをクリックします。

アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。



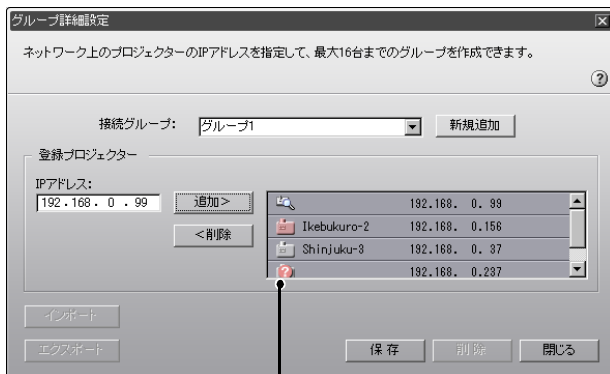
ポイント

「0.0.0.0」と「255.255.255.255」は使用できません。



- 6** IPアドレスが登録プロジェクター一覧に追加され、検索中であることを示すアイコンが表示されます。プロジェクターが見つると、一覧にプロジェクター名が表示されます。さらにプロジェクターを登録したい場合は、手順5を繰り返します。

登録したプロジェクターは、一覧に追加されていきます。



アイコンの色と形によって以下のように状態が異なります。

 (グレー): 未接続

 (オレンジ): 他のコンピュータと接続中

 : 現在検索中

 : 検索したが見つからなかったもの



ポイント

- 最大16台までプロジェクターを追加できます。接続できるプロジェクターの台数は最大4台までです。
- 追加したプロジェクターを一覧から削除したい場合は、削除したいプロジェクターを選択して「<削除」ボタンをクリックします。

7 登録したいプロジェクターをすべて一覧に追加したら、「保存」ボタンをクリックします。「グループを保存します。よろしいですか？」というメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

グループが保存されます。

メッセージ画面で「いいえ」ボタンをクリックすると、グループは保存されません。



ポイント

既存のグループを編集して保存する場合や、保存するグループと同じ名前のグループがすでに「接続グループ」にあった場合は、「同一名称のグループが登録されています。上書きしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックするとグループを上書き保存します。別名で保存したい場合は、「いいえ」ボタンをクリックして、グループ詳細設定画面の「接続グループ」でグループ名を入力して「保存」ボタンをクリックしてください。

8 「閉じる」ボタンをクリックします。

グループ詳細設定画面を閉じ、拡張機能画面に戻ります。



ポイント

グループを削除したい場合は、グループ設定画面の「接続グループ」で削除したいグループを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

グループを使用して接続

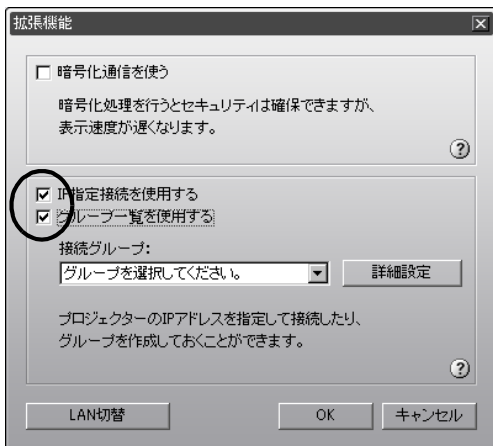
次の手順で、グループに登録したプロジェクターに接続します。

「グループの作成」でグループを作成し、引き続きこの手順を実行する場合は、手順3から始めてください。

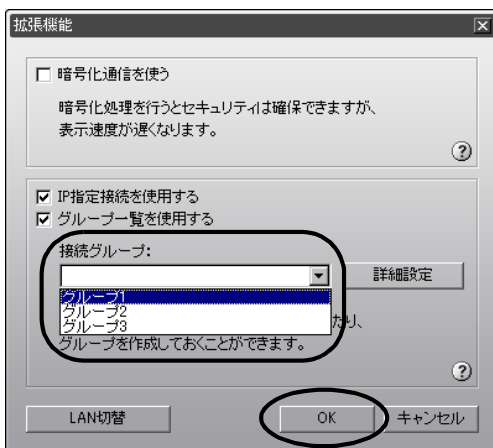
操作

1 「IP アドレスを指定して接続」の手順 1 ～ 3 を実行します。➡ p.52

- 2** 拡張機能画面が表示されます。「IP 指定接続を使用する」と「グループ一覧を使用する」をクリックしてチェックマークを付けます。



- 3** 「接続グループ」で接続したいグループを選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- 4 以下の画面が表示された場合は、画面の右上に表示されている「IP 指定接続」をクリックします。画面の左上に「IP 指定接続モード」と表示されている場合は、何もせずに手順 5 に進みます。



- 5 「登録プロジェクター」に、グループに登録されているプロジェクターが表示されます。接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。
プロジェクター名は、プロジェクターの接続待機画面に表示されています。



アイコンの色と形によって以下のように状態が異なります。

-  (グレー) : 未接続
-  (オレンジ) : 他のコンピュータと接続中
-  : 現在検索中
-  : 検索したが見つからなかったもの



ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、先に接続していたコンピュータを自動的に切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。

グループのエクスポート

次の手順でグループをエクスポートします。



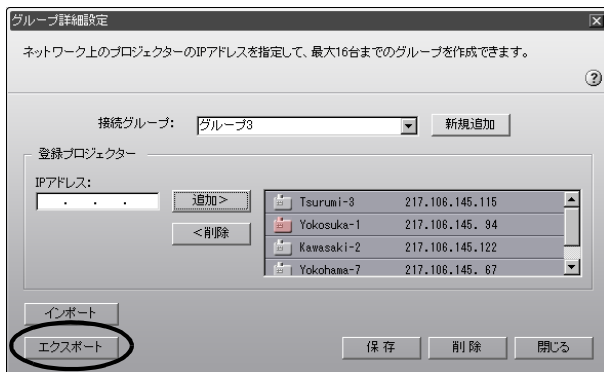
ポイント

- 「接続グループ」のリストにあるすべてのグループをエクスポートします。特定のグループのみをエクスポートすることはできません。
- グループをエクスポートする前に、最低1つはグループを作成して保存しておいてください。● p.57
- グループ作成中または編集中は、エクスポートできません。

操作

1 「グループの作成」の手順 1,2 を実行します。● p.57

2 「エクスポート」ボタンをクリックします。



3 表示された画面で、エクスポート先のフォルダを選択してファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。

指定したファイル名でグループがエクスポートされます。



- 指定できるファイルの拡張子は「.ini」のみです。
- 選択したフォルダに指定したファイル名と同じ名前のファイルがある場合は、「指定されたファイルがすでに存在します。上書きしますか？」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックするとファイルを上書き保存します。別名で保存したい場合は、「いいえ」ボタンをクリックして、手順3の画面でファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックしてください。

グループのインポート

次の手順でグループをインポートします。

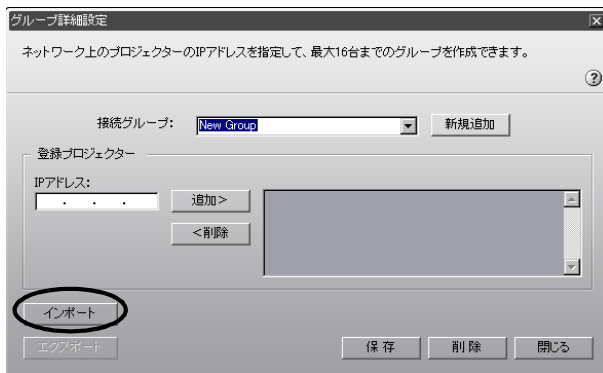


グループ作成中または編集中は、インポートできません。

操作

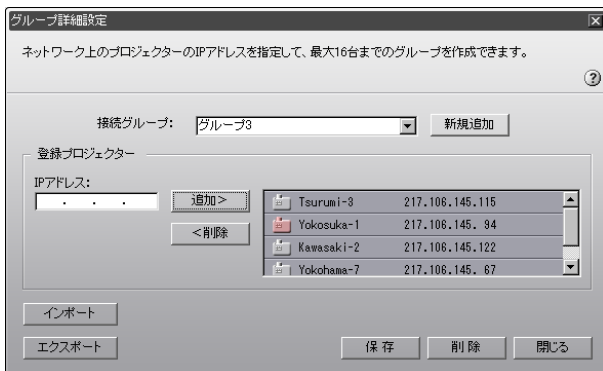
1 「グループの作成」の手順 1、2 を実行します。☛ p.57

2 グループ詳細設定画面が表示されます。「インポート」ボタンをクリックします。



3 表示された画面で、インポートするファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

グループがインポートされ、「接続グループ」のリストにインポートしたグループ名が追加されます。



ポイント

- 指定できるファイルの拡張子は「.ini」のみです。
- インポートするグループと同じ名前のグループがすでに「接続グループ」のリストにあった場合、「同一名称のグループが登録されています。上書きしますか?」というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると「接続グループ」のリストにあったグループをインポートしたグループに上書きします。「いいえ」ボタンをクリックすると、グループはインポートされません。

インポートしたグループに登録されたプロジェクターに接続したい場合は、「グループを使用して接続」の手順 3 ～ 5 を実行してください。 ➡ p.62

データを暗号化して通信したいときは

ネットワークを介して接続したコンピュータの映像をプロジェクターで投写する際に、その映像のデータを暗号化して通信することができます。データを暗号化すると、セキュリティが確保されます。ただし、通信速度は遅くなります。

以下の手順で、暗号化通信の設定をします。



注意

- EasyMP 動作中(画面が切り替わったり、無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯中など)は、電源ケーブルを抜かないでください。
- 無線 LAN カードのアクセスランプが緑色に点灯しているときや、ネットワーク接続中は、無線 LAN カードを取り出さないでください。無線 LAN カードが壊れることがあります。
- 有線 LAN カードのアクセスランプについては、ご使用の有線 LAN カードの『取扱説明書』をご覧ください。

操作

1 アクセスポイントモードで、プロジェクターとコンピュータの接続設定をします。➡ p.38

2 コンピュータで、「スタート」-「プログラム」(または「すべてのプログラム」)-「EPSON Projector」-「EMP NS Connection」の順に選択します。EMP NS Connection が起動します。



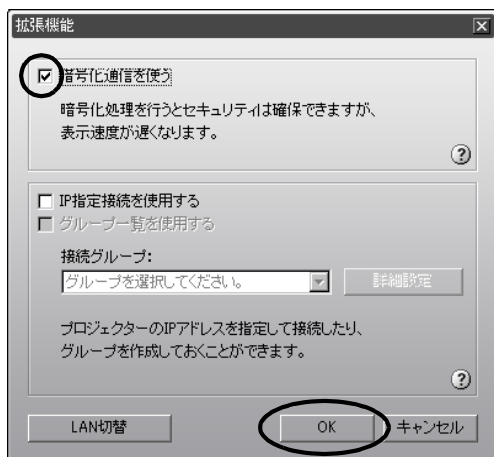
注意

PowerPoint 起動中に EMP NS Connection を起動すると、起動時の画面に「PowerPoint を再起動しないと、スライドショーが実行できない場合があります。」と表示されます。このようなときは、PowerPoint をいったん終了し、EMP NS Connection 起動後にもう一度起動してください。

3 次の画面で、「拡張機能」ボタンをクリックします。



4 拡張機能画面が表示されます。「暗号化通信を使う」をクリックしてチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。



5 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。



コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。このとき、コンピュータとプロジェクターの間でデータを暗号化して通信しています。

付 録

ここでは、プロジェクターで利用できるメモリカード、EasyMP Software のアンインストールについて説明します。また、本書で使っている用語の解説と索引も記載しています。

利用できる PC カード	72
● 利用できるメモリカード	72
● 利用できる有線 LAN カード	72
EasyMP Software のアンインストール	73
用語解説	74
適合宣言について	76
索引	78

使用できる PC カード

使用できるメモ리카ード

ATA 規格に準拠した以下のメモ리카ード(TYPE II)を使用できます。
認識できるメモ리카ードのフォーマットは、FAT16/32 です。

- コンパクトフラッシュカード(装着するときは PC カードアダプタが必要です)
- ATA フラッシュカード
- メモリスティック(装着するときは PC カードアダプタが必要です)
- スマートメディア(装着するときは PC カードアダプタが必要です)
- SD/MMC カード(装着するときは PC カードアダプタが必要です)

使用できる有線 LAN カード

使用できる有線 LAN カードの詳細は、エプソンのホームページ「I Love EPSON」でご確認ください。アドレスは裏表紙をご覧ください。

EasyMP Software のアンインストール

EasyMP Software が不要になった場合は、Windows 上で次の操作を行うと、アンインストールできます。

操作

「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」で不要になったソフトウェアを選択し、「追加と削除」(Windows XP の場合は「変更と削除」)をクリックします。



ポイント

- 「EMP NS Connection」、「EMP SlideMaker2」、「EMP Monitor」を同時に1回の操作でアンインストールすることはできません。不要なソフトウェアを1つずつアンインストールしてください。
- 「EMP SlideMaker2」をアンインストールしてもEMP SlideMaker2フォルダは残ります。必要なシナリオファイルが保存されていないか確認のうえ、不要な場合は削除してください。

用語解説

本書で使用している用語で、本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol の略で、ネットワークに接続する機器に、IP アドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
ESSID	ESS とは Extended Service Set (拡張サービスセット) の略です。ESSID は、無線 LAN の環境で相手と接続するための識別データです。ESSID が一致している機器どうして無線通信できます。
IP アドレス	ネットワークに接続されたコンピュータを認識するための数字のことです。
MAC アドレス	MAC とは Media Access Control の略です。MAC アドレスはネットワークカードごとの固有の ID 番号です。すべてのネットワークカードは 1 枚ずつ固有の番号が割り当てられており、これをもとにカード間のデータの送受信が行われます。
SNMP	Simple Network Management Protocol の略で、TCP/IP ネットワークにおいて、ルータ、コンピュータ、端末など、ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピュータのオペレーティングシステム (OS) やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。
WEP	Wired Equivalent Privacy の略で、通信中のデータを暗号化するセキュリティ方法です。 WEP で暗号キーを登録しておくと同じ暗号キーが登録されている機器どうしてないとデータの通信が行なえなくなります。
アドホックモード	無線 LAN の接続方式の 1 つで、アクセスポイントを介さずに無線 LAN クライアント同士で通信する方式です。
ゲートウェイ	サブネットマスクによって分割したネットワーク (サブネット) を超えて通信するためのサーバ (ルータ) のことです。
サブネットマスク	IP アドレスから、分割したネットワーク (サブネット) のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。

チャンネル	同じ周波数を使用して無線通信する機器が多いと、通信速度が低下します。その場合、無線 LAN ネットワークごとに無線チャンネルを設定することで、他の無線 LAN の干渉を避けることができます。
トラップ	SNMP マネージャに送信されるメッセージのことで、監視される側で状態変化や異常が発生したときにその内容が送信されます。
トラップ IP アドレス	SNMP で異常報知する場合の、報知先のコンピュータの IP アドレスです。異常報知したいコンピュータの IP アドレスをトラップ IP アドレスに指定します。

適合宣言について

MODEL: TMW1008

FCC ID: NUSTMW1008

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference. and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

1. Feature

• Completely Covered Assembly is Designed to fully packaged in a PCMCIA Type II extended cover set.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B Personal Computer and Peripheral, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.

However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This equipment has been tested to comply with the limits for a Class B personal computer and peripheral, pursuant to Subpart B of Part 15 of FCC Rules. Only peripherals (computer input/output devices, terminals, printers, etc.) certified (DoC) or verified to comply with Class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-certified (DoC) or non-verified personal computer and/or peripherals is likely to result in Interference to radio and TV reception. The connection of a unshielded equipment interface cable to this Equipment will invalidate the FCC Certification of this device and may cause interference levels which Exceed the limits established by FCC for equipment.

You are cautioned that changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void your authority to operate the equipment.

2. CAUTION

Exposure to Radio Frequency radiation Antenna shall be mounted in such a manner to minimize the potential for human contact during normal operation. The antenna should not be contacted during operation to avoid the possibility of exceeding the FCC radio frequency exposure limites.

索引

アルファベット

ATA フラッシュカード	72
CardPlayer	5
DHCP	43
EasyMP Software CD-ROM	8,15
EMP Monitor	37
EMP NS Connection	25,49
ESSID	22,42
ESSID 指定アドホック	22,25
E ズーム	32,33
IP アドレス	43
IP 指定接続モード	52
LAN 選択画面	49
MAC アドレス	23,43
Network Screen	20,38
PC カード	12,72
PC 系ソース切替	32
SD/MMC カード	72
SMTp	44
SNMP	45
WEB コントロール用パスワード	23,42
WEP	46
WEP 暗号	46
Wi-Fi	10

アイウエオ

ア

明るさ	34
アクセスポイント	10
アクセスポイントモード	37
アクセスランプ	14
宛先メールアドレス	44
アドホックモード設定	22
アンインストール	73
暗号化	67
暗号キー	47
インストール	15

カ

カードスロット	12
カラーモード	34
簡単接続モード	19
キーID	46

基本設定	32,34
基本設定 (Network Screen)	42
グループ	57
ゲートウェイ	43
コントラスト	34
コンパクトフラッシュカード	72

サ

サブネットマスク	43
使用周波数	10
スマートメディア	72
静止	31
接続状況画面	31
接続待機画面	24,48
接続台数	30
切断	36

タ

対応解像度	29
台形補正	34
チャンネル指定アドホック	22,25
チャンネル番号	11,23
通知イベントの指定	44
ツールバーの使い方	31
電磁妨害	11
動画	5
トラップ IP アドレス	45

ナ

入力方式	46
ネットワーク詳細設定	21,39

ハ

ビデオ系ソース切替	32
表示色	30
プロジェクターキーワード	23,42
プロジェクター操作 URL 表示	31
プロジェクター名	22,42
ポート番号	44

マ

ミュート	31
無線 LAN カード	10,12
無線 LAN カードの条件	10
メール	44

メール通知機能	44
メモリスティック	72
文字や数値の入力方法	23,47



有線 LAN 接続モード	37
--------------------	----

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(裏表紙参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストと本体の形状は異なる場合があります。

本製品を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外で使用する際には、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国に合った純正電源ケーブルを現地にてお買い求めください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

電源高調波について

この装置は、高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

IBM、DOS/V は、International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。
Macintosh、Mac、iMac は、Apple Computer, Inc. の登録商標です。
Windows、WindowsNT は米国マイクロソフト社の商標です。
ドルビーはドルビーラボラトリーズの商標です。
EPSON はセイコーエプソン株式会社の登録商標です。
Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.
The freely available TIFF library written by Sam Leffler, Copyright © 1988-1997 Sam Leffler and Copyright © 1991-1997 Silicon Graphics, Inc., is used for loading, drawing and writing the TIFF file.

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。
本製品は、オープンソースソフトウェアを利用しております。



この取扱説明書は再生紙を使用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

●エプソン販売のホームページ「I Love EPSON」<http://www.i-love-epson.co.jp>

各種製品情報・ドライバ類の提供、サポート案内等のさまざまな情報を掲載したエプソンのホームページです。

FAQ

エプソンなら購入後も安心。皆様からのお問い合わせの多い内容をFAQとしてホームページに掲載しております。ぜひご活用ください。
<http://www.i-love-epson.co.jp/faq/>

●エプソンサービスコールセンター

修理に関するお問い合わせ・出張修理・保守契約のお申し込み先

0570-004141 (全国ナビダイヤル) 【受付時間】9:00～17:30 月～金曜日(祝日・弊社指定休日を除く)

*ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ㈱の電話サービスの名称です。

*新電電各社をご利用の場合、「0570」をナビダイヤルとして正しく認識しない場合があります。ナビダイヤルが使用できるよう、ご契約の新電電会社へご依頼ください。

*携帯電話・PHS端末・CATVからはご利用いただけませんので、(042) 582-6888までお電話ください。

●修理品送付・持ち込み依頼先

お買い上げの販売店様へお持ち込みいただくか、下記修理センターまで送付願います。

拠 点 名	所 在 地	T E L
札幌修理センター	〒060-0034 札幌市中央区北4条東1-2-3 札幌フコク生命ビル10F エプソンサービス㈱	011-219-2886
松本修理センター	〒390-1243 松本市神林1563エプソンサービス㈱	0263-86-7660
東京修理センター	〒191-0012 東京都日野市日野347 エプソンサービス㈱	042-584-8070
福岡修理センター	〒812-0041 福岡市博多区吉塚8-5-75 初光流通センタービル3F エプソンサービス㈱	092-622-8922
沖縄修理センター	〒900-0027 那覇市山下町5-21 沖縄通関社ビル2F エプソンサービス㈱	098-852-1420

【受付時間】月曜日～金曜日 9:00～17:30(祝日・弊社指定休日を除く)

*予告なく住所・連絡先等が変更される場合がございますので、ご了承ください。

*修理について詳しくは、エプソンサービス㈱ホームページ<http://www.epson-service.co.jp>でご確認ください。

●ドアtoドアサービスに関するお問い合わせ先

ドアtoドアサービスとはお客様の希望日に、ご指定の場所へ、指定業者が修理品をお引取りにお伺いし、修理完了後弊社からご自宅へお届けする有償サービスです。*梱包は業者が行います。

ドアtoドアサービス受付電話 **0570-090-090** (全国ナビダイヤル) 【受付時間】月～金曜日9:00～17:30(祝日・弊社指定休日を除く)

*ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ㈱の電話サービスの名称です。

*新電電各社をご利用の場合は、「0570」をナビダイヤルとして正しく認識しない場合があります。ナビダイヤルが使用できるよう、ご契約の新電電会社へご依頼ください。

*携帯電話・PHS端末・CATVからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、下記の電話番号へお問い合わせください。

受付拠点	引き取り地域	T E L	受付拠点	引き取り地域	T E L
札幌修理センター	北海道全域	011-219-2886	福岡修理センター	中四国・九州全域	092-622-8922
松本修理センター	本州(中国地方を除く)	0263-86-9995	沖縄修理センター	沖縄本島全域	098-852-1420

【受付時間】月曜日～金曜日9:00～17:30(祝日・弊社指定休日を除く) *松本修理センターは365日受付可。

*平日の17:30～20:00および、土日、祝日・弊社指定休日の9:00～20:00の電話受付は0263-86-9995(365日受付可)にて日通諏訪支店で代行いたします。*ドアtoドアサービスについて詳しくは、エプソンサービス㈱ホームページ<http://www.epson-service.co.jp>でご確認ください。

●プロジェクターインフォメーションセンター 製品に関するご質問・ご相談に電話でお答えします。

0570-004110 (全国ナビダイヤル) 【受付時間】月～金曜日9:00～20:00 土曜日10:00～17:00(祝日・弊社指定休日を除く)

*ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ㈱の電話サービスの名称です。

*新電電各社をご利用の場合、「0570」をナビダイヤルとして正しく認識しない場合があります。ナビダイヤルが使用できるよう、ご契約の新電電会社へご依頼ください。

*携帯電話・PHS端末・CATVからはご利用いただけませんので、(0263) 54-5800までお電話ください。

●ショールーム *詳細はホームページでもご確認いただけます。 <http://www.i-love-epson.co.jp/square/>

エプソンスクエア新宿 〒160-8324 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル1F

【開館時間】 月曜日～金曜日 9:30～17:30(祝日・弊社指定休日を除く)

エプソンスクエア御堂筋 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-6-3 NMプラザ御堂筋1F

【開館時間】 月曜日～金曜日 9:30～17:30(祝日・弊社指定休日を除く)

● MyEPSON

エプソン製品をご愛用の方も、お持ちでない方も、エプソンに興味をお持ちの方への会員制情報提供サービスです。お客様にピッタリのおすすめ最新情報をお届けしたり、プリンタをもっと楽しくお使いいただくお手伝いをします。製品購入後のユーザー登録もカンタンです。さあ、今すぐアクセスして会員登録しよう。

インターネットでアクセス! <http://myepson.i-love-epson.co.jp/>

▶ カンタンな質問に答えて
会員登録。

●消耗品のご購入

お近くのEPSON商品取扱店及びエプソンOAサプライ株式会社(ホームページアドレス <http://www.epson-supply.co.jp/> またはフリーダイヤル0120-251528)でお買い求めください。

エプソン販売 株式会社

〒160-8324 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル24階

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5

21113002